

上越市創造行政研究所（上創研）は、平成12年に設置された上越市役所の組織内シンクタンクです。当市のまちづくりを支援する調査研究機関として、人口データなどの分析や情報提供、フォーラムやワークショップの開催、調査研究による政策提言などを行っています。

Topic 01

「地区まち交流会 in 板倉区」を開催しました

板倉区において、約半年間かけて行ってきた「地区まちワークショップ」。

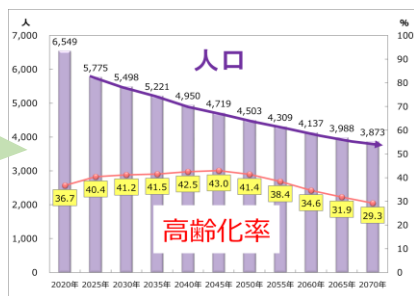
移住定住促進を通じ持続可能なまちづくりを実現するため、地域の現状分析や課題整理、移住定住促進のアイデアなど話し合ってきた成果を、12月14日（日）「地区まち交流会」にて発表しました。板倉区の住民をはじめ120名の方にご参加いただき、6チームの成果を共有しました。

また、今年度から大島区と牧区で活動を開始した定住支援コーディネーターの2人が報告を行ったほか、住民主体でまちづくり活動を進めている浦川原区、大島区、牧区のパネルを展示。さらに、地区まちワークショップの一環として、板倉中学校の1年生がレゴブロックを使って作成した未来の板倉区の展示を行い、各地域の取組を知ることで、今後のまちづくりへの参考材料や意識向上を図る場となりました。

■地域の現状把握と持続可能に向けたロードマップ

当日の最初のプログラムとして、板倉区総合事務所より定住増加目標や地域の現状を見える化する「地元天気図」について説明がありました。毎年「平場で49人、山間地で5人」の定住を目標とし、地域産業活性化、自然資源活用、移住促進、教育振興、地域コミュニティ強化、情報発信の6つを今後取組むべき柱としました。

人口シミュレーションにより定住目標を設定



「地元天気図」を作成し、地域の現状を把握

■6チームの発表内容

①地域産業の活性化(山間地・ベテランチーム)

自然豊かな板倉区の農産物やジビエを活かしたビジネスモデルを構築し、「稼げる地域」を目指す。山を守り、鳥獣被害を減らし、農業の存続と地域経済の活性化を通して持続可能な循環を実現する。

②自然資源活用と観光振興(山間地・ヤングチーム)

板倉区の自然資源を活用した観光振興を進めるため、まずは、クライミング体験会等を開催し「板倉って面白い」と感じてもらう。中期目標として「非日常に泊まる」体験を創出し、最終的には板倉区全体を巡る体制を整える。

③移住促進と住居整備(平場・ベテランIチーム)

まず町内会が空き家情報を収集し、「板倉版空き家データベース」を作成。次に移住受け入れ組織を設立し、相談窓口を開設。最終的に「移住マッチングアプリ」を開発し、広域拡散を進め移住支援を充実化する。

④教育・文化の振興(平場・ヤングIIチーム)

「教育のまち」として地域全体を学びの場とする取組を提案。少子化による学校統廃合や文化消滅といった課題を解決するため、伝統体験ツアーや廃校活用などを通じて文化を継承し、教育ブランド確立を目指す。



Topic 02

⑤ 互助活動の促進と地域コミュニティ強化(平場・ベテランIIチーム)

高齢化や地域衰退への対策として、「共助」を軸に地域課題解決を目指す取組を提案。住民ニーズ調査や支援活動を基盤とし、ボランティアを「仕事」へと繋げる仕組みを構築。地域産業の担い手育成を通じて、持続可能な地域づくりを推進する。

⑥ 情報発信と外部との連携強化(平場・ヤングIチーム)

板倉の認知度向上と若者のUターンを促進するため、SNS発信やイベントを通じ魅力を発信。まずは情報発信の強化に着手し、中期目標としてイベント開催や「映え」スポットの整備を行う。最終目標として新会社を設立し、地域拠点を開設。世界中から注目される地域づくりを目指す。

■ 定住支援コーディネーターの活動報告

今年度から活動を開始した定住支援コーディネーターの加藤さん(大島区)と草野さん(牧区)から、これまでの活動報告や今後の展望についてお話をいただきました。大島区では「いいね!おおしま☆むらづくりプロジェクト」を通じ、移住者と地域住民の交流を促進し、移住者が暮らしやすい環境づくりを進めています。牧区ではイベント開催、SNS活用、空き家情報の整理を進めるなど、移住者を受け入れる体制の整備を進めています。各地域において、コーディネーターが地域の団体と関わりながら定住促進に向けた取組を展開しています。



■ 各種資料展示

浦川原区、大島区、牧区を取組や板倉中学校1年生のレゴブロックの作品のほか、上越市創造行政研究所の事業内容、大学生と共同で実施した「地元学」について紹介しました。



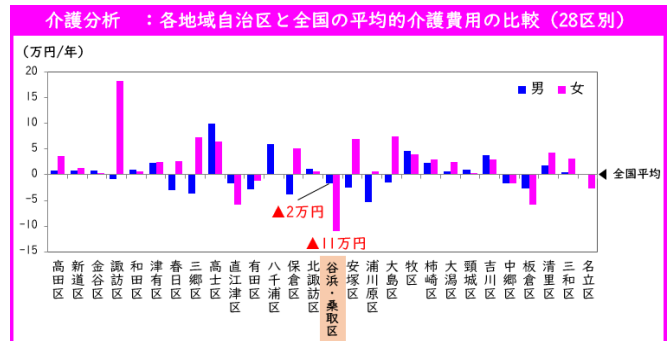
新潟大学の学生と共同で住民ヒアリングを行いました

令和6年度に当研究所が実施した介護分析において、上越市内28地域自治区の中で「女性の介護費用が全国平均と比較したときに一番低く抑えられている」という結果が示された谷浜・桑取地区。この数値の背景にある生活実態を深く知るため、1月8日(木)・9日(金)の2日間、新潟大学と連携した聞き取り調査を実施しました。

調査には新潟大学経済科学部の中東雅樹准教授と学生8名が参加し、地域のNPO法人かみえちご山里ファン倶楽部のコーディネートにより、谷浜・桑取地区のお茶飲みサロンでの交流や、計8名の高齢女性への個別ヒアリングを行いました。

調査を通じて見えてきたのは、統計データだけでは捉えきれない、住民の方々の自立した生活意識や、互助の精神に支えられた暮らしの知恵です。同時に、地域特有の我慢強さや介護認定に対する複雑な思いなど、現場ならではの切実な声にも触れることができました。調査後、学生たちは当研究所にて意見交換を行い、若者らしい感性で地域の強みと課題を整理しました。

本調査の結果は2月末までにとりまとめ、地域へフィードバックする予定です。



▲介護分析の結果(研究所ホームページに地区別データシートとして公開)

28地域自治区の中で、谷浜・桑取地区の女性が、全国と比較し、一番介護費用を抑制している。

